



がん検診編

『おっぱいはどう写るの？』

～乳がん検診の受け方 その1～

2年に1回で大丈夫ですか？

市町村のがん検診で受診できるのが2年に1回なのは、厚生労働省の「がん検診に関する検討会」において、乳がん検診（マンモ + 視触診）の受診間隔について検討した結果、2年に1度とすることが適切であることが報告されたためです。

これは、住民検診のように“限られた経費の中で最大限の効果をもたらすには”という条件で出された結果であることがポイントです。個人の癌リスクの低下を考えた場合は、年に1回の受診がおすすめです。特に50歳以上の方は年1回のマンモグラフィをお勧めします。

なぜ痛いくらい強く挟むのですか？

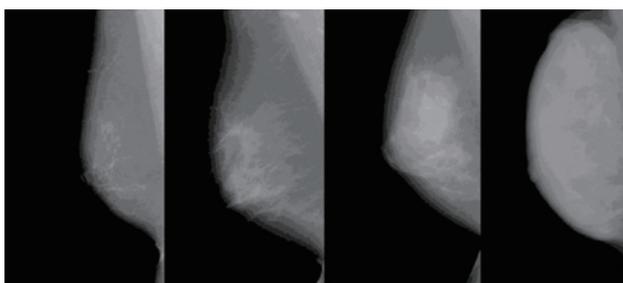
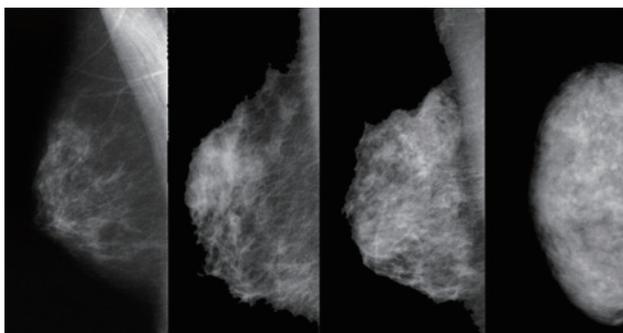
マンモグラフィは、お乳を板で挟んで薄くのばして撮影します。薄くすることで乳腺の重なりをなくし、診断をしやすくし、さらに被曝線量も少なくなるからで、とても大切なことなのです。

装置も年々改良されていますが、なるべく生理中のお乳の張っているときは避けて、生理後2～3日おいて受けていただくと、痛みも少しは和らぐと思います。

どんなふうに写るのですか？

乳房は、大きく分けて乳腺（主に乳汁を作る部分）と脂肪とに分かれ、高齢になるほど乳腺が脂肪におきかわっていきます。この乳腺と脂肪の比率を乳腺評価と言い乳房の構成を表します。

乳腺の多い順に、乳腺評価は「高濃度→不均一高濃度→乳腺散在→脂肪性」となります。マンモグラフィでは、乳腺は白く脂肪は黒く写ることがポイントです。



← 乳腺が少ない 乳腺が多い →

